

# 全科協ニュース

URL <http://www.jcsm.kahaku.go.jp/>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園7-20 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成25年1月1日発行(通巻第248号)

## 特集：リニューアル館の紹介

本紙各号巻末の加盟館園からお寄せいただいたリニューアル情報の中から、休館もしくは展示室閉鎖を伴う大規模な展示改修を行い、平成24年3月以降にリニューアルオープンした3館についてご紹介させていただく。各館がリニューアルに至った事情や内容は異なるが、より効果的な学習効果や来館者の利便性向上など様々な工夫と努力を伺い知ることができ、今後の加盟館園でのリニューアル計画の参考になれば幸いである。

今年度の第2回全国科学博物館協議会総会が、本紙でも紹介させていただいた愛媛県総合科学博物館で2月28日に開催される。当日は、愛媛県総合科学博物館のリニューアルの実際を見学いただけるとともに、翌日の研究発表大会でも講演いただくことを予定している。より多くの加盟館園の皆様にご参加いただき、活発な議論がなされる場としてご活用いただきたい。

(国立科学博物館連携協力課長・本紙編集委員 高尾 敏史)

## 愛媛県総合科学博物館自然館の展示改修について

愛媛県総合科学博物館 学芸課自然研究科 専門学芸員 大西 剛

当館は平成6年11月の開館以来、大規模な展示改修を行っていなかったが、平成23年度実施事業として、国の交付金を受け2件の展示改修事業を行った。一つは可動式恐竜模型2体(ティラノサウルス、トリケラトプス)の更新(事業名:キッズディノ交流ランド事業・財源:厚生労働省「安心子ども基金」・予算額:78,865千円)で、もう一つは自然史系資料の展示コーナー改修(事業名:気づきを促す自然環境展示整備事業・財源:総務省「住民生活に光をそそぐ交付金」・予算額47,827千円)である。いずれも展示棟4階自然館での改修工事であった。

### 1 リニューアル背景

当館は年間約20万人の来館があるが、来館単位の7割が家族連れ、来館者の35%程度が高校生以下となっており、学習機会の提供の場及び地域住民交流の役割を担ってきた。その中で、恐竜の展示は館内で一番(特に子ども)の人気があり、実物大模型の動きはリアルな感覚に訴え、高い展示効果を発揮してきたが、開館後18年が経過し、展示物の

陳腐化・老朽化が進み、また恐竜に関する研究が進む中で最新の学術成果を盛り込む必要性に迫られていた。

また平成20年度末で閉館となった旧県立博物館(松山市堀之内)から当館に移管された博物館資料約20万点のうち、ニホンカワウソ等実物資料900点を21年度から常設展示しており、公開した資料は大変価値の高いものであったが、旧県博当時の老朽化したケースを流用して展示せざるを得なかったので展示手法が限定され、資料の魅力が一般に伝わらず、適切な展示が出来ているとはいえない状況にあった。特に、流用した展示ケースはセキュリティ面で問題があるため貴重な資料は展示できず、また展示演出も行えないため、教育効果が低く資料の真価が発揮できない状態が続いていた。

### 2 リニューアルのねらい

キッズディノ交流ランド事業については、厚生労働省の「安心子ども基金」を財源としたことから、恐竜をテーマに親子で「学んで」「楽しめる」展示や体験の場を提供し、地域の子

育て交流の場としても博物館の利用促進を図ることを目的とした。

気づきを促す自然環境展示整備事業については、展示什器を一新して旧県立博物館から総合科学博物館へ移管され常設展示している資料の保全を図るとともに、魅力的な演出方法を用いて教育効果を高めることを目的とした。

### 3 リニューアル内容

「安心子ども基金」を活用することにより、館内で一番の人気がある実物大の動く恐竜展示を中心に、新たに子どもたちの学習を通じた子育てを支援する事業を行うこととし、新しい演出と性能で来館者を魅了する恐竜ロボットと子育て交流の場を担う体験コーナーを整備することとした。

また、旧県博の貴重な実物資料については、ジオラマ演出など教育効果の高い展示手法で公開するべく新規設計、製作することで展示室を整備・再構成することとし、新しい展示室で、来館者が実物資料を基に自然環境の問題に気づき、考える機会を提供することを目的とした。中でも愛媛県の県獣であり当館に日本一多くの剥製が収蔵されているニホンカワウソについては、人間生活の影響で生息環境が変わり消えていった動物として、その過程を伝えられるような内容とした。あわせて、来館した学校団体への配布用として児童生徒用の解説書と、教員用として常設展示と学習単元対照表(小中高)を作成した。

### 4 リニューアルの経過

可動式恐竜模型は、製作会社については平成23年7月にプロポーザル審査を実施し、株式会社ココロが選定された。その後、体色については愛媛大学教授など専門家の意見を基にして決定し、体型についても最新の学術研究を基にティラノサウルスの幅を当館に従来設置されていた模型より縮める(3.6m→2.5m)など見直しを行い、10月より工場にて製作を開始した。

自然史展示の改修では平成23年8月にプロポーザル審査を実施し、株式会社ムラヤマが選定された。その後実施設計を進め、展示方法や使用什器を決定した。あわせてこれまで動線が分かりづらかった自然館のサイン計画も行った。

館では平成24年1月3日にお別れイベント「17年間ありがとう! 恐竜2大スターと思い出づくり」を実施し、1月5日から自然館をすべて閉鎖した。1月6日より展示物の撤去を開始し、1月20日には既存恐竜模型の撤去が概ね完了し、2月2日には工場で当館の学芸員の検収を受けた恐竜ロボット2体が分割されて搬入され、組み立てが開始された。2月15日には自

然史展示の改修に使う什器や展示台の搬入が始まり、ジオラマ展示の壁面や土台等が現場で施工された。その後恐竜の動作確認や展示物の照明調節等を経て当館職員の現場検収を受けた後、3月19日に全ての展示物の引渡し完了した。

可動式恐竜模型のリニューアルの結果、従来の油圧式から精密な駆動制御が可能な空気圧式に変わったことにより、今までにないダイナミックな動きが可能となった(写真1)。



写真1 リニューアルされた恐竜ロボット  
(手前:ティラノサウルス13.9m 奥:トリケラトプス7.3m)

また喜怒哀楽を表現したり体操する機能を備えており、子どもたちが恐竜と一緒に体操をすることができるようになった。あわせて恐竜の実物化石を触ったり、恐竜トリックアートで記念撮影ができるキッズディノコーナーを新たに設けるなど、恐竜をテーマとして親子で楽しめる展示内容となった(写真2)。



写真2 新設されたキッズディノ体験コーナー

自然史展示の改修では、化石、鉱物、サンゴの標本については、LED照明を使った明るく見やすい展示に変更するとともに、世界の動物と海の生きものをジオラマステージ上に展示した(写真3)。またニホンオオカミ頭骨など愛媛県に関する国及び県の天然記念物を展示するとともに、日本一の収蔵点



写真3 ジオラマ展示に変更された世界の動物コーナー



写真4 新設されたニホンカワウソコーナー

数を誇るニホンカワウソ実物資料の中から剥製、毛皮、骨格標本を展示した(写真4)。

## 5 閉館中の館の活動

工事期間中は4階自然館を平成24年1月5日(木)から3月23日(金)までの79日間すべて閉鎖した。それに伴い、常設展示室の約半分を閉鎖することになることから、閉鎖期間中の観覧料を通常の大人500円を250円の半額とした。なお、閉鎖期間中は週末の館内イベント(エントランスホールでの工作教室など)を実施し、集客の維持に努めた。

## 6 オープン後の状況、リニューアル効果

平成24年3月24日(土)にリニューアルオープンし、招待客ら約320名が参加した記念式典を行った。館の入館者数も10月末現在で181,340人と、23年度同期の152,901人と比べて18.6%増となっており、リニューアルの効果が顕著に現れている。

また、記念式典の際、地元の幼稚園児の参加の下、音楽に合わせて恐竜と一緒に体操するプログラムを実演し、その後は「みんなで一緒に恐竜体操」として土・日・祝に1日2回実施している。平成24年10月末現在で17,479人の親子らの参加があり大変好評である。なお当館は平成21年度より指定管理者制度を導入しており、主に学芸部門は県側が、

館の運営は指定管理者であるイヨテツケーターサービス株式会社が分担して担当している。今回のリニューアルについても、予算措置及び展示物の決定に関しては県側が担当し、完成後の恐竜体操など事業運用や維持管理等については指定管理者が担当して実施している。

また平成24年7月14日から9月23日の68日間、恐竜をテーマにした特別展「ディノ・ミュージアム」を開催し、ティラノサウルスの全身骨格標本、カマラサウルスの幼体の実物骨格標本等を展示し、54,072人が観覧した。あわせてプラネタリウムでも「ダイナソーDX パタゴニア・巨大恐竜の謎」という恐竜をテーマにした番組をラインアップし、館全体で恐竜を全面に押し出した事業を展開した。

自然館についても、環境省が平成24年8月28日に公表した「第4次レッドリスト」において、これまで「絶滅危惧種」としていたニホンカワウソを「絶滅種」に指定したことから、今回新設したニホンカワウソのコーナーに対する来館者の注目が高まり、マスコミにも取り上げられた。

今後も正月のイベント等で恐竜ロボットのインタラクティブ機能を活用した「ティラノサウルス&トリケラトプスと一緒に恐竜クイズ」を行うなど、リニューアルした恐竜ロボットの人気を上手く利用した事業展開を行っていきたいと考えている。

# 山口県立山口博物館の展示リニューアル

山口県立山口博物館 亀谷 敦

## 1. はじめに

山口県立山口博物館は、明治45(1912)年に防長教育博物館として小学校の古い校舎を利用して開館したのがはじまりである。平成24年の4月に開館100周年を迎えた。明

治時代に開館し、現在まで続いている県立の博物館はほかにはなく、全国で最古の県立博物館である。

昭和42(1967)年に現在の建物に建て替えられ、天文・地学・植物・動物・考古・歴史・理工の7つの部門から

なる総合博物館として現在に至っている。これまで平成2～3年度に理工部門に特化したリニューアルがあったのみであり、他の部門の展示室はほとんど手付かずで昭和42年当時の展示風景を残していた。築45年を迎える建物であり老朽化が目立つので、少しでも来館される方々に気持ちよく見学していただきたいと、建て替えやリニューアルを職員一同、常日頃より望んでいた。2年後に100周年を迎えようという平成22(2010)年に、「住民生活に光をそそぐ交付金」の活用によるリニューアル計画が浮上、大がかりな改修を行うこととなった。

平成23(2011)年11月14日から平成24(2012)年3月26日まで休館し、以下の更新を行った。

#### ○展示資料更新

- ・理工：ロボット及び体験型展示資料の更新
- ・地学：恐竜全身骨格復元模型の設置
- ・植物・動物：ジオラマによる自然環境の再現展示
- ・天文：太陽系の惑星運行模型更新

#### ○グランドデザインに基づく壁面塗り替えなど展示室のイメージ更新(全展示室)

#### ○1階収蔵庫(動物・考古・歴史)及び2階収蔵庫(植物・動物)改修

#### ○2階各展示室の階段昇降機設置、トイレ改修、など

## 2. 展示更新

リニューアルを行った常設展示室を紹介する。

### (1) 理工展示室

理工展示室は、科学技術を紹介する2階の展示室と、体験型展示で構成される3階展示室に分かれている。理工展示室のリニューアルコンセプトは、「いつでも・どこからでも科学を感じ取る」とした。華やかな最先端技術に興味をもつことも重要であるが、そのような技術に触れる機会を持つことは実際にはなかなか難しい。そこで、身近に潜んでいる科学に気づくことができる展示づくりを心掛けた。科学技術を紹介するコーナーでは、「私たちの暮らしを支えるサイエンス」をテーマとして新旧の家電製品に見られる技術の進展を、実物資料展示を通して発見してもらうとともに、それら技術のポイントを体験できる展示を製作・設置した。子ども達が体験展示で楽しむ一方、大人の方々には昔の家電製品を懐かしそうに見ていただいている。

また、3階展示室では約20年前に設置した体験型展示を撤去し、新たに12種17アイテムの体験型展示を製作、設置した。PC制御を組み込んだ展示は長期間の維持管理が難しく、操作方法が難解になりがちなため、構造はシンプ

ルなものとし、体験のたびに異なる結果が生じることによって、飽きさせない展示とすることを心掛けた。解説パネルは、体験を通して感じる「なぜ」を提起し、その「答え」を解説、そして、そのような現象がどこで「発見」されるかを紹介する3部構成となっており、日常生活の中に不思議が溢れていることに気づかせるようにしている。



ボールの投げ合いをするロボット(理工展示室)

### (2) 地学展示室

従来の地学展示室は、山口県産の化石・岩石を時代ごとに展示し、山口県の大地がどのようにしてできたかを学習できる構成であった。来館された県内外の方が山口県の大地を学ぶためには必要不可欠な展示であるが、小学生や中学生が来館して学習の場に使うには少し難しい内容であった。学習指導要領には博物館の活用が取り上げられており、今後來館の機会が増えるであろう小学生や中学生が地学展示室に興味を持って観覧できるよう、恐竜全身骨格復元模型(ティラノサウルス)を設置することにした。あわせて、地球の歴史が学習できるよう展示資料の一部を更新した。山口県の大地に関する展示は側面のケースにまとめ、中央の恐竜などの地球の歴史に関する展示とは区別した。



恐竜全身骨格復元模型ティラノサウルス(地学展示室)

### (3) 植物・動物展示室

これまで植物・動物の展示は、ケース内におけるレプリカ・剥製・昆虫標本・貝類標本、写真の単品展示とパネル説明が主であった。今回、大型ジオラマを導入し、館内に居ながらにして県内の豊かな自然を直感的に理解し堪能する事ができるよう、リニューアルを行った。ジオラマは県内の自然の景観から最も特徴的な「海浜・干潟、市街地、河岸・ため池、草地、里山、深山」の6シーンを選択し、標高順に配置している。それぞれのシーンはいずれも自然のフィールドを凝縮した高密度ジオラマとして製作し、一部には春夏秋冬の季節の表現もとり入れている。



里山のジオラマによる生態展示(植物・動物展示室)

全植物種数は61種で、基本的にそれぞれのシーンに生態学的に最も相応しい種を選定すると同時に、来館者が理解しやすいよう、普通種を極力選ぶようにした。さらに、その中に、北限の種や固有種、あるいは絶滅危惧種、さらには市や町の指定天然記念物などを織り交ぜ、さらなる興味関心を醸成できるよう工夫している。動物については全種数96種で、哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・魚類・貝類・甲殻類などの動物を、6シーンの生息環境ごとに、採食や捕食、飛翔やグルーミングなど様々な行動が観察できるように配置し、あわせて昆虫標本や貝類標本も展示した。また、最新の調査結果がわかるトピックコーナーを設けている。

### (4) 天文展示室

天文展示室は6つのコーナーに区分した。「太陽系運行模型」のコーナーは、40数年動き続けた十球儀を更新し、冥王星を外した九球儀を製作した。この九球儀は8つの惑星が実際の公転周期の比率どおりに太陽の周りを回る。さらに、各惑星の特徴などについて、モニタ10台を使い解説している。「太陽系と隕石」「宇宙の構成」「天文学の歴史」の各コーナーでは、展示ケースについては従来のものを活用し、ケースのガラス面をグラフィックシートで覆い、情報を前面に出し読みやすくし、展示資料をうきあがらせるよう工夫した。また「太陽系と隕石」コーナーでは、山口県内落下の隕石2点を含む多数の隕石を展示している。「天文学の歴史」コーナーは、今回初めて設けたもので、当館所蔵の明治期前後の天体観測機器など展示し、天文学の歴史を物語るものとした。「天文ニュース」のコーナーでは、日食、月食、彗星など最近の天文現象の予報・解説記事を紹介している。「山口の星空」のコーナーは従来のものをそのまま利用し、山口県から見ることのできる星空を、2.6m×7.5mの大型蛍光星座板で解説している。

### 3. おわりに

今回のリニューアルと開館100周年がちょうど重なり、昨年3月27日に開館100周年記念式典を行うとともに新展示室の披露を行ったところである。春休み期間中は「大科学展」と題する記念展覧会を、夏休みには「大鉄道展」を開催した。特に大鉄道展は、近年の企画展の中では第2位を記録する6万5千人近い入館者数であったが、今回の常設展示室のリニューアルが大きく貢献していることは間違いない。

山口博物館では100周年を終え、これからの100年の博物館の姿について真剣に検討しているところである。展示資料の更新のみならず、県民との交流をどのように行うかなど、残された課題は多い。これまでの関係者の方々のご指導・ご鞭撻に感謝するとともに、今後のより一層のご指導をお願いする次第である。

## 埼玉県立自然の博物館のリフレッシュオープン

埼玉県立自然の博物館 植田 雅浩

### はじめに

当館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅そして自然と

人との共生」をテーマとした埼玉県内で唯一の自然系総合博物館である。埼玉県立博物館施設の再編・統合に伴い、

2006年4月に埼玉県立自然史博物館から埼玉県立自然の博物館に改称された。埼玉の自然や、人のくらしと自然との関わりを多面的・総合的に扱い、県民に自然と人との共生について考えるための情報を提供している。当館の使命は、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信し、学習を支援すること、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めていくことだ。

当館の前身である埼玉県立自然史博物館は、1981年11月10日に開館した。さらに歴史的には、秩父鉄道株式会社が設立した「鑛物植物標本陳列所」(1921年開設)および「秩父自然科学博物館」(1949年開設)にも遡ることができる。これら90年余りの伝統と資料を受け継いでいる博物館である。現在の建物は、前川設計事務所の設計により、埼玉県立自然史博物館創設時に建築されたもので、築30年を過ぎて老朽化が進んでいた。そこで昨年度大規模な施設改修が予算化され、2011年9月から2012年10月5日まで長期休館し、工事がおこなわれた。休館当初は、展示改装の計画はなく、施設のアメニティー向上、老朽化した施設設備の改修が予定されていただけであった。しかし、休館直前の昨年5月に当館を含む長瀨が、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに掲載され、注目を浴びた。さらに、9月には、長瀨町を含む秩父郡市が日本ジオパークの一つ「ジオパーク秩父」に認定された。このような当館を取り巻く状況の変化があり、この休館を機に当館が大きく変わるのではと、周辺の期待が高まってきた。そこで館内にプロジェクトチームを編成し、当館の機能をどのように充実するか検討することになった。そして臨時の予算獲得から始め、展示改装に取り組んだ。約1,000万円の予算額ではあったが、展示物の集約と体験ゾーンの整備を中心に効果的な展示改装ができたといえよう。

### リフレッシュオープンまでの道程

昨年度当初の計画どおり、大規模改修工事が施工され、2011年9月1日から休館した。リフレッシュオープンは2013年1月の予定であったが、前述の状況変化やさまざまな方面からの指摘があり、最終的に2012年10月6日になった。改修工事は、収蔵庫、各標本製作室、執務室など展示室以外の全てが工事対象となったため、1年間、隣町にある休校中の学校を仮事務所にして業務をおこなってきた。休館中は、数年来継続して利用実績がある学校などに対しては、長期休館と休館中でも授業支援ができる旨の文書を送

るなど利用促進対策をおこなった。実際、学校や野外での授業支援も数多くおこなってきた。さらに、ポスター・チラシを2回制作し配布をおこなった。最初のものは、長期休館をお知らせするものであり、次のものは、リフレッシュオープンの認知度・期待感を高める目的のものであった。このほか、複数の県内市町立の博物館施設と共催展を開催した。また、県立の博物館等の6施設の協力を得て、パネルや標本により埼玉の自然と当館を紹介するミニ展示をおこなった。さらに、秩父地域では4ヶ所の集客施設・博物館施設でジオパーク秩父と当館を紹介する展示活動をおこなった。このように、リフレッシュオープンに備え、広報、展示・教育普及活動のデリバリーをおこなってきた。その一方で、収蔵資料も大部分が移動したため、調査研究・資料整理などの基礎的な活動は後回しになりがちであった。

### リフレッシュオープンの目玉

今回のリフレッシュのオープンを機に大きく変わった部分を施設と展示に分けてみる。施設面で新しくなり、かつ観覧者に見える部分としては、受付まわりのレイアウトを変更して授乳室を新設したこと、トイレが快適になったことがあげられる。展示面では、常設展示に「体験ゾーン」を新設したこと、屋外に観察園「カエデの森」を造成したこと、展示解説ボランティア制度が発足したことが大きな変更点である。



写真1. ディスカバリーコーナー

#### (1) 体験ゾーンの新設

今回の展示改装の一番の目玉は、「ディスカバリーコーナー」、「さわれるはく製コーナー」、「カエデコーナー」からなる「体験ゾーン」の新設である。

この展示改装を機に、当館の展示におけるウィークポイントは何か、館内のプロジェクトチームで話し合った。そして埼玉



写真2. ディスカバリーコーナーで楽しむ親子



写真3. 観察園「カエデの森」を活用したふれあいトーク

玉県の重点施策である学力向上の支援を念頭に検討を重ねた。そして新しい展示のコンセプトは「体験」と「学力向上」に決まった。こうして博物館の強みである実物資料を介した体験ができて、かつ小中学校のカリキュラムに沿うコンテンツを提供することで、学力向上の支援を目指すことになった。

## (2) 屋外展示 観察園「カエデの森」

埼玉県内に自生する20種類以上のカエデを移植した見本園である。平成23年度住民生活に光を注ぐ交付金基金により、敷地内に造成した。秩父地域は、観光資源としてのカエデに関心が高く、紅葉はもちろんのこと、イタヤカエデの樹液から得たカエデ糖を使った菓子なども販売している。また、博物館に近接する公園は、秋の夜には紅葉がライトアップされ、多くの観光客で賑わう。これらを踏まえ、地域や県民の関心が高く、生物多様性の観点からもシンボルとなり得るカエデ属の観察園を整備した。当初計画では、3年がかりで現地での根回し、園路整備、植栽するというものであったが、単年度事業であったため、特に自生個体の移植と活着は困難を極めた。それでも46個体を植栽して、およそ7割の個体が活着した。枯死した種類は、かわりに実生個体を植栽し、どうにか埼玉県産の全種を植えてリフレッシュオープンを迎えることができた。また、園路には県産材を使ったベンチを設置し、誰でも自由に利用できる無料スペースとした。そして目論見どおり来館者の憩いの場となっている。さらに当館では、ミュージアムトークの場としても活用している。今後、生育が順調になれば、館内の科学教室とあわせてカエデ学といった連続講座も実施することができそうである。

## (3) 展示解説ボランティア

今まで当館では、資料整理・調査補助・教育普及事業補助のボランティアが活動してきた。ここ数年、展示解説ボランティアの発足を目指し、準備を進めてきた。昨年度末に展示解説ボランティアの募集をおこなったところ、10名が集まった。今年度の4月から9月に研修をおこない、リフレッシュオープンにあわせて展示解説にデビューした。リフレッシュオープンした10月は、のべ43人のボランティアが活動し、展示概要の説明をおこなった。このボランティアは、月2回以上活動するものとして、主に団体利用があるときに常設展示の概要説明をおこなうものとしている。

## おわりに

博物館本体の工事の終了後、半月ほどの期間で展示改装をおこなった。さらに仮事務所から戻ってくる引っ越しも同時進行した。そして体験ゾーンのコンテンツを製作した。このように非常にタイトなスケジュールの中、無事10月6日のリフレッシュオープンを迎えることができた。ありがたいことにリフレッシュオープンした10月と長期休館した前年の10月と比較すると、2倍の観覧者があった。オープニングイベントの効果も大いにあったのであろうが、その後も、順調に観覧者が訪れている。また、観覧者に対する展示のアンケート結果も満足度が高く、滞留時間も展示改修前より長くなっている。これからの課題は、体験ゾーンのコンテンツを定期的に入れ替えていくことと、体験ゾーンに職員やボランティアを配置することで効果を高める方策を立てることである。これからも観覧者のニーズを把握し、展示を充実させるため、身の回りのできることから始め、より利用される館であり続けたい。

## 海外博物館事情 No.113 安井 亮

### ■ 東日本大震災の記憶の継承

#### 米ハーレー社博物館、カナダに漂着したバイクを展示

1台のハーレー・デイビッドソン社製の大型バイクが、東日本大震災で発生した津波により宮城県から流され、はるばる2012年4月にカナダの太平洋岸の島に漂着しているのが発見された。現地のみならず、日本国内でも大きな話題になった。東日本大震災の記憶の継承の目的で、このバイクは、持ち主の横山氏（宮城県宮元町）の好意で、製造したハーレー・デイビッドソン社（ウイスコンシン州ミルウォーキー）に寄贈され、同社の本社にあるハーレー・デイビッドソン博物館で、2012年10月24日から常設展示として公開が始まった。横山氏の強い希望で、東日本大震災の悲惨さを知ってもらうために、汚れやサビには手を加えず、最小限の保存処理をして展示されている。

Harley-Davidson Museum, Milwaukee.

<http://livedoor.blogimg.jp/mamemome-baikuto/images/4/f/4f780ac3.jpg>

### ■ 閉館の危機

#### 風の博物館（スペイン）、市の財政破綻で閉館の憂き目に

スペイン北東部のにあるラ・ムエラ市はスペイン国内で風力発電のパイオニアだったが、昨今の国の財政危機のあおりで、同市は2011年に財政破綻した。その影響で、市の風力発電事業の象徴だった、科学館「風の博物館」（2004年設立）は運営費の大幅削減により、2011年11月から休館状態を強いられている。館長と数人の職員をのぞいて、ほとんどの職員が移動や解雇を強いられ、この状況では、閉館もやむなし。

Museo del viento de la Muela, La Muela.

<http://www.youtube.com/watch?v=Ys5DvT1B1Qg>

### ■ リニューアル

#### キュリー博物館、2012年9月に再開

パリ市内の「カルチュ・ラタン」と呼ばれる文教地区にあるキュリー博物館が2年間のリニューアルを経て、2012年9月13日に公開を再開した。今回のリニューアルでは、放射線の研究で、ノーベル賞を二回受賞したマリア・スクウォドフスカ=キュリーが実験に使っていた二つの部屋が装いを新

たにした。2007年に102歳で他界した末娘のエーヴ・キュリー夫人の遺言で、遺産から100万ドルが今回のリニューアルのために寄付された。

Musee Curie, Paris

<http://www.musee.curie.fr>

#### スコダ自動車博物館、2012年11月に再開

プラハの郊外にムラダーボレスラフという町があり、そこはチェコで唯一の自動車メーカーであるスコダ社の創業の地であり、1895年創業の同社の本社および工場が設けられている（注：日本に殆ど輸入されていない）。同社には、1995年設立の博物館があり、このほど3年間のリニューアルを経て、2012年11月26日に公開が再開した。リニューアルでは、20世紀初頭に完成した古い建物を外観だけ残して、内部を全面的に改装して常設展示中心の施設に変えた。新しい常設展示（1800㎡）は三つのコーナーで構成されている。「伝統」では、1895年の創業から現在に至る歴史の中で製造された名車45台（自転車、モーターサイクル、自動車）を紹介。「進化」では、1859年に創業した武器製造メーカーに起源をもつスコダ社の歴史。「製造」では、歴代のスコダ社の自動車がどのように製造されたか、またどのように長く乗れるように整備されてきたかを紹介。新しい施設には、常設展示ホール以外に、二人の創業者（ヴァーツラフ・ラウリンとヴァーツラフ・クレメン）の名を冠したホール（930㎡）も設けられており、そこでは新車の発表やイベントが開催されることになっている。

Skoda Muzeum, Mlada Boleslav.

<http://new.skoda-auto.com/en/experience/museum>

### ■ 常設展示

#### 米ハーバード大学自然史博物館、森林の生態展をオープン

米北東部の6州（コネチカット州等）はニューイングランド地方と呼ばれており、州境をまたがって広大な森林「ニューイングランド森林」がある。その森林の豊かな生態を紹介した常設展示が、ハーバード大学自然史博物館に2011年5月21日にオープンした。いまま森林の奥深く生息しているオオカミやトナカイをはじめ、豊かな生物多様性が紹介されている。

New England Forests.



Harvard Museum of Natural History, Cambridge.  
<http://www.hmnh.harvard.edu/exhibits/index.php#new>

### NY水族館、沈没船の一部を、水槽に活用

1939年2月10日の晩にロード・アイランド州沖を航行していたオイルタンカー「ライトバーク」がブロック島に座礁し、そして強い海流に押されて沈没した。同号はその後海底でガレキと化し、長い放置されてきたが、このほどニューヨーク水族館で、海底に眠る同号の一部が新しいサメの水槽展示に活用されることになった。サメの遊泳が見られる新しい水槽は2015年春に完成する。総工費1億5000万ドル。

Ocean Wonder: Sharks!

New York Aquarium, Brooklyn.

<http://workingharbor.wordpress.com/tag/ocean-wonders-sharks/>

## ■ 企画展・特別展

### ロンドン科学博物館、「暗号解読とチューリング」展を開催

イギリスの数学者アラン・チューリング(1912-1954)は、第二次世界大戦中にドイツ軍の暗号の解読に成功したことでよく知られており、また戦後の情報科学の発展にも貢献している。ロンドン科学博物館で開催中の企画展「暗号解読：アラン・チューリングの生涯と業績」は、チューリングの生誕100周年を記念して、第二次世界大戦における暗号解読の業績を紹介したものである。晩年は当時刑事告発の対象となっていた同性愛の嫌疑がかけられ不幸だったが、2009年にゴードン・ブラウン首相(当時)が政府として正式に謝罪し、名誉回復がなされた。これを受けて、「暗号解読」展が企画された。企画：デービッド・ルーニ(科学技術史)。

会期：2012年6月21日～2013年7月31日。

Codebreaker - Alan Turing's life and legacy.

Science Museum, London.

<http://www.sciencemuseum.org.uk/visitmuseum/galleries/turing.aspx>

<http://www.facebook.com/AlanTuringCodebreaker>

### 英ウェールズ国立博物館、「犬の中のオオカミ」展を開催

欧米の学会では、オオカミが犬の祖先であるとか、そうでないかという論争が長く続いており、いまだにその決着がつかない。かつてイギリス本島でも野生のオオカミが生息していたが、既に彼ら(オオカミ)は絶滅してしまって久しく、

動物園でしか見るできない。国立ウェールズ博物館(カーディフ市)では、オオカミが犬の祖先であるという主張に立った「犬の中のオオカミ」企画展が開催されている。

会期：2012年10月13日～2013年2月24日。

The Wolf Inside.

National Museum Wales, Cardiff.

[http://www.culture24.org.uk/asset\\_arena/2/79/50/405972/v0\\_master.jpg](http://www.culture24.org.uk/asset_arena/2/79/50/405972/v0_master.jpg)

### 英マンチェスター博物館、「イギリス人と犬」展を開催

イギリス人は大のイヌ好きの国民として知られているが、イギリスの文化に登場するイヌが人間とどう付き合ってきたか、そしてイヌの品種改良が人間の都合によってどうされてきたかの歴史を紹介した企画展が、マンチェスター博物館(マンチェスター大学附属博物館)で開催されている。同展は、イギリスで人気が高い6つの代表的な血統が取り上げられている：ブラッドハウンド、ボルゾイ、ブルドッグ、コリー、アイリッシュ・ウルフハウンドとペキニーズ。同展の企画は、マンチェスター博物館動物学研究部(ヘンリー・マックギー部長)が手がけ、マンチェスター大学科学技術史研究所の協力を得た。

会期：2012年10月6日～2013年4月14日。

Breed: The British & their Dogs.

The Manchester Museum, The University of Manchester.

<http://www.museum.manchester.ac.uk/>

### 米ジョージア大学自然史博物館、捕食動物展を開催

ジョージア大学自然史博物館は、自然史標本は充実しており、収蔵している標本の総点数は約600万点。約2万点のゾウムシの標本は貴重なコレクションとされている。にもかかわらず研究博物館である同館は、今迄その存在が一般人の間では殆ど知られていなかった。しかし同館に異変が起きている。学生の発案で完成した企画展「ヒョウ、ハイエナ、そして熊」は、自然界における「捕食する側と捕食される側」の関係をテーマにしており、学生が発案したということで、大きな評判を呼び、多くの観覧者を引きつけている。3ヶ月の開催を予定に2012年1月28日に開催が始まったが、好評が続いているせいで、今も続いている。

Leopards, Hyenas and Bears - Oh My!

Georgia Museum of Natural History, Athens.

<http://naturalhistory.uga.edu/>

# 1月2月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
札幌市青少年科学館	冬の特別展「サイエンジャーのナゾに挑戦！」	1月5日～1月20日
山形県立博物館	共同企画展「私たちのたからもの」	12月22日～2月17日
郡山市ふれあい科学館	スペースパーク企画展「からくり人形の世界展」	12月1日～1月14日
	ホワイエ企画展「オーロラ写真展」	1月2日～3月31日
つくばエキスポセンター	企画展「つくば国際戦略総合特区」（仮称）	12月18日～3月17日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第56回企画展「鉦-レアメタル、レアアース、新資源を探せ-」	10月6日～1月14日
	特別展示「日本に残った植物 日本で生まれた植物-アートでみる日本の固有植物-」	2月2日～2月24日
那須塩原市那須野が原博物館	企画展「那須をとらえるⅡ-地域研究者からの発信-」	12月11日～2月11日
	企画展「ほっこり温泉気分 むかしの温泉風景」	2月16日～4月21日
群馬県立自然史博物館	自然のフォトギャラリー「サバンナの風 写真に見るアフリカの大地」	1月1日～2月24日
鉄道博物館	開館5周年・鉄道開業140周年記念 特別企画展「鉄道開業ものがたり」	10月6日～1月14日
入間市博物館	第16回むかしのくらしと道具展	1月6日～2月17日
埼玉県立自然の博物館	企画展「オオタカは大きくない～鳥たちの世界～」	1月19日～6月9日
千葉県科学館	冬の企画展「パネル展 次世代望遠鏡でみる宇宙」	12月7日～1月14日
NHK放送博物館	テレビ60年 衛星、デジタル、そして未来へ」	11月6日～3月24日
	市川森一が遺したもの	11月20日～2月11日
	こんにちふるさと地域放送局のちから NHK松山放送局	1月22日～3月31日
多摩六都科学館	冬の特別企画展「星の風景」	12月8日～1月14日
新江ノ島水族館	1月のテーマ水槽「今年は巳年。によろよろ 長ーい 福の神 来たる」	12月26日～1月31日
	おみくじ水槽～巳年 あなたにおすすめの生き物～	12月29日～1月31日
	相模の海のヘビ水槽	1月1日～1月31日
黒部市吉田科学館	富士フィルムフォトコンテスト	2月2日～3月17日
富山市科学博物館	こども写真展「わたしたちの自然」	1月25日～2月3日
山梨県立科学館	「ウルトラマン展」	1月4日～1月14日
岐阜県博物館	発掘速報展「発掘された飛騨・美濃の歴史」	11月17日～2月3日
光記念館	「飛騨地方の火山」展	2月27日～12月10日
東海大学海洋科学博物館	年賀状水槽～これで完成年賀状～水槽内から「明けまして!!」	11月3日～1月14日
	干支の生きもの-巳-	1月1日～1月14日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「びっくり! 空気のチカラ研究室」	9月11日～2月11日
豊橋市自然史博物館	巳・蛇・ヘビ（へび・だ・へび）	12月15日～1月14日
	企画展「閏節」	1月19日～2月24日
碧南海浜水族館・碧南青少年海の科学館	「海の化石～化石は語る～」	1月2日～2月24日
滋賀県立琵琶湖博物館	ギャラリー展示 「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」	12月22日～3月10日
きしわだ自然資料館	企画展「種子のデザイン 旅するかたちinきしわだ」	12月22日～1月30日
神戸市立青少年科学館	パネル展示「オーロラ～宇宙からの手紙～」	1月19日～2月3日
伊丹市昆虫館	企画展「どうする? どうなる? 外来生物」	11月14日～2月25日
	企画展「てんとうむし」	2月27日～5月13日
兵庫県立人と自然の博物館	展示特別企画「丹波の恐竜化石発掘～6年間の軌跡～」	4月28日～3月31日
	共生のひろば展	2月11日～4月7日
姫路科学館	企画展「プラネタリウム～星空から宇宙へ～」	12月22日～1月27日
	作品展「第27回未来を描く科学絵画展」	2月1日～2月24日
明石市立天文科学館	「2013年全国カレンダー展」	12月15日～1月27日
	「ふくしま 星・月の風景フォトコンテスト」	2月2日～4月7日
橿原市昆虫館	第27回企画展「古事記の生き物たち」	11月6日～2月3日

開 催 館	展 覧 会 名	開 催 期 間
鳥取県立博物館	企画展「発掘された日本列島2012／ 地域展・鳥取の遺跡発掘クロニクル」	1月12日～2月24日
	企画展「鳥取の表現者File4 フナイタケヒコ 絵画の光景」	2月16日～3月24日
出雲科学館	開運！科学で初遊び2013	1月4日～1月8日
島根県立三瓶自然館	第33回SSP展「自然を楽しむ科学の眼2012-2013」	1月2日～1月31日
倉敷市立自然史博物館	第20回しぜんしくらしき賞作品展	1月13日～4月7日
笠岡市立カプトガニ博物館	特別陳列「ミニチュアミュージアム」	2月1日～3月31日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「カラダがよるこぶ音楽のチカトラ」 ～音楽は心のサプリメント～	10月27日～2月17日
	企画展「色★いろ健康玉手箱」～げんきをいろどる色マジック～	2月23日～7月14日
広島市江波山気象館	新春企画展「サイエンス&アートの遊園地」	1月26日～3月20日
防府市青少年科学館	企画展「ピカッ!とゴロゴロ!イナズマサイエンス」	2月9日～3月10日
愛媛県総合科学博物館	企画展「愛媛の博物誌」	11月23日～1月27日
	企画展「磁石と日本人」	2月23日～4月7日
佐賀県立宇宙科学館	秋冬の企画展「じしゃくのヒミツ～磁石であそぼ!～」	10月20日～1月27日
宮崎県総合博物館	すばらしき宮崎の自然	1月5日～2月17日

## 【 リ ニ ュ ー ア ル 】

### つくばエキスポセンター

[更新箇所] デジタルプラネタリウムシステム及び  
プロジェクター

[公 開 日] 平成24年12月15日

[準備期間] 平成24年11月26日～12月14日

[担当者] コニカミノルタプラネタリウム株式会社



改修後のイメージ図

### 日本科学未来館

[更新箇所] 5階常設展示フロア「世界をさぐる」の「人間」  
コーナーのリニューアル。

[更新内容] 新規展示「ぼくとみんなとそしてきみ -未来をつくりだすちから-」。脳科学、霊長類学、認知科学などの多様な視点から明らかになってきた、「生物としての人間」の性質を知り、私たちの未来社会について考える。

[公 開 日] 平成24年12月22日



チンパンジーの視線の動きを調べる実験



ストーリーテラーとしての「ぼく」

提供：林原類人猿研究センター

**5 | NOMURA**

人が集う場、  
そこにはいつも  
楽しさとか、  
おどろきとか、が  
溢れています。



**Prosperity Creator  
NOMURA**  
http://www.nomurakougei.co.jp

株式会社 **乃村工藝社**  
本 社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171(代表) 〒135-8622  
営業拠点：札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・北京・上海  
シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

集客環境づくりの調査・コンサルティング、  
企画・デザイン・設計・制作施工  
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

**Panasonic**  
ideas for life



Core Products  
Security  
Communication  
AVC Network

Total Solution  
マーケティング・セールス  
SI・アプリケーション開発  
設置・施工  
保守・メンテナンスサービス  
運用サービス

パナソニックだから、  
可能なソリューションがある。

Jump to Creation of New Value パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社  
詳しくはホームページで [panasonic.co.jp/snc/pssj/](http://panasonic.co.jp/snc/pssj/)

こころを動かす空間をつくりあげるために。

調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・  
運営およびコンサルティング・プロデュース



**Tanseisha**

株式会社 **丹青社** 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2  
TEL.03-3836-7221(代表) <http://www.tanseisha.co.jp>  
札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の  
標本及び模型を探しご案内いたします —

**マラウイサウルス  
ティタノサウルス科  
全長—10m**



株式会社 **ゼネラルサイエンスコーポレーション**  
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802  
TEL:03(3583)0731 / FAX:03(3584)6247  
e-mail: [sizensi@shibayama.co.jp](mailto:sizensi@shibayama.co.jp)  
<http://www.shibayama.co.jp>

小型ヒューマノイドロボット

**NAO**  
INTERACTIVE HUMANOID ROBOT

音声認識で  
こんにちは!

2足歩行  
ロボット  
と  
ふれ合う  
楽しさ

研究開発者に多く使  
われている2足歩行のヒ  
ューマノイドロボットで  
す。福祉・医療・展示な  
どで触れたい仕事を見  
て楽しむ事ができます。

お問い合わせは  
TEL : 03-5952-9391  
<http://www.revast.co.jp>  
E-mail : [revast-pdc@revast.co.jp](mailto:revast-pdc@revast.co.jp) FAX : 03-5952-9361

国内代理店  
株式会社 **リバスト**  
〒171-0014 東京都豊島区池袋2-68-12

※NAOはフランスのアルデバラン社の製品であり製品名です

最先端3D天文シミュレーションと  
高解像度+高コントラスト映像によるクラス最高のフルドーム映写システム!!

**MEDIAGLOBE-III (メディアグローブIII)**

「メディアグローブIII」は定評のあるコンパクトな本体設計  
を受け継ぎながら、小型ドーム対応した単眼映写方式におい  
てトップレベルの解像度(ドーム直径方向1536ピクセル)と  
コントラスト比(最大200,000:1)を実現しています。  
映像品質を決定づける映写レンズには、コニカミノルタの優  
れた光学技術を駆使した新開発のドーム映写専用高精細フィ  
ッシュアレンズを搭載。  
さらに新機能として「映像歪み補正機能」を採用しており、  
「メディアグローブIII」本体をドーム内の壁面近くに設置し  
ても、映写映像を電子的に補正することでドームスクリーン  
全体に正確な全天周映像を映写いたします。



コニカミノルタ **プラネタリウム株式会社**  
東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3  
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階  
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金星西町1-8  
URL: <http://pla.konicaminolta.jp>

TEL(03)5985-1711  
TEL(06)6110-0570  
TEL(0533)89-3570

**TOKYO SCIENCE CO., LTD.**

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本/化石・鉱物・岩石  
古生物/レプリカ・復元模型  
恐竜復元モデル

since 1974

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆  
Fossils, Minerals & Rocks  
株式会社 **東京サイエンス** TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745  
<http://www.tokyo-science.co.jp>  
E-mail: [info@tokyo-science.co.jp](mailto:info@tokyo-science.co.jp)  
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

全科協ニュース編集委員

佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館学芸課学芸員)  
田代 英俊 (科学技術館企画広報室長)  
畠山 泰英 (株式会社キウイラボ代表取締役)  
平濱 美紀子 (ディスカバリーパーク焼津主任)  
高尾 敏史 (国立科学博物館事業推進部連携協力課長)

全科協事務局  
国立科学博物館 事業推進部 連携協力課 (担当：園山)  
Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成25年1月1日  
発行 全国科学博物館協議会©  
〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内  
印刷 島崎印刷株式会社